

新規開業によるワークライフバランスの変化

～「2009年度新規開業実態調査(特別調査)」の結果から～

- I 調査の目的と実施要領
- II アンケート回答企業の概要
- III 調査結果
 - 1 ワークライフバランスの状況
 - 2 ワークライフバランスの改善要因
 - (1) 時間
 - (2) 仕事
 - (3) 収入
 - 3 属性とワークライフバランスの変化
 - (1) 企業
 - (2) 経営者
 - 4 満足度
- IV まとめ

<問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所
小企業研究第1グループ
TEL 03-3270-1687
担当 松原、深沼

I 調査の目的と実施要領

1 目的

昨今、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)について、さまざまな論議がなされている。ただ、それらは主に勤務者の働き方に関するものであり、企業経営者を念頭においたものは少ない。そこで今回は、新たに事業を経営することを自ら選択した新規開業者のワークライフバランスに着目した。はたして、開業者はワークライフバランスが改善したと感じているのか、また、どのような要因がワークライフバランスに影響しているのか。こうした疑問に答えるため、「新規開業実態調査(特別調査)」を実施し、新規開業者の開業前後のワークライフバランスの変化を探った。

2 実施要領

(1) 調査時点

2009年8月

(2) 調査対象

国民生活金融公庫(現・日本政策金融公庫国民生活事業)が2008年4月から同年9月にかけて融資した企業のうち、融資時点で開業後5年以内の企業(開業前の企業を含む)10,776件。

(注) 1 不動産賃貸業は調査対象から除いている。

2 1991年度から毎年実施している「新規開業実態調査」の調査対象(開業後1年以内の企業)を拡大したものである。

(3) 調査方法

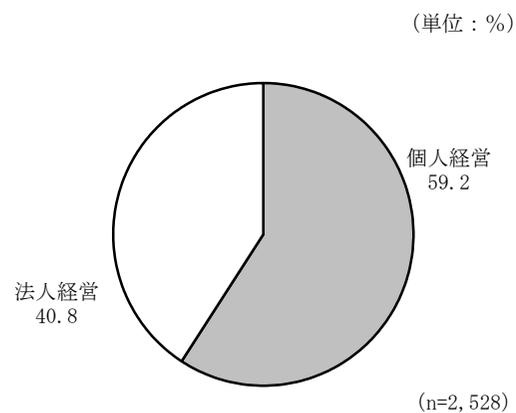
調査票の送付・回収ともに郵送、アンケートは無記名。

(4) 有効回答数

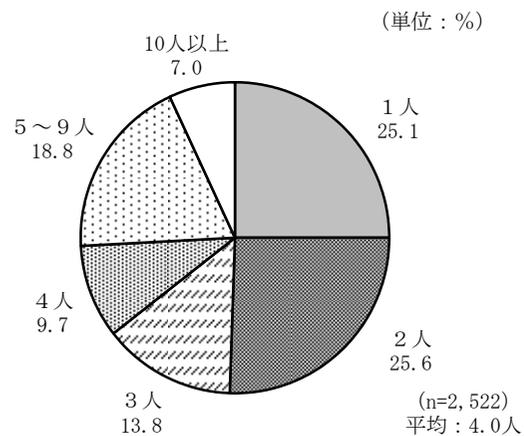
2,541件(有効回答率23.6%)

II アンケート回答企業の概要

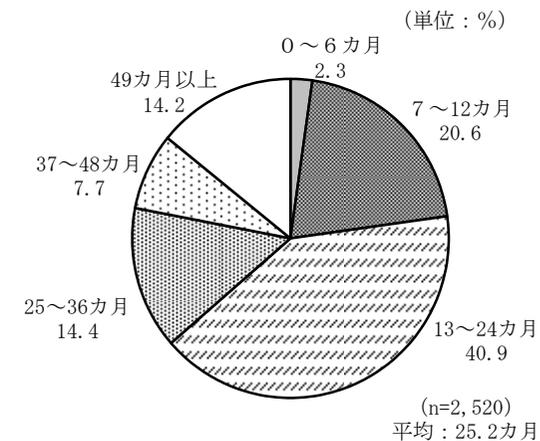
経営形態(開業時)



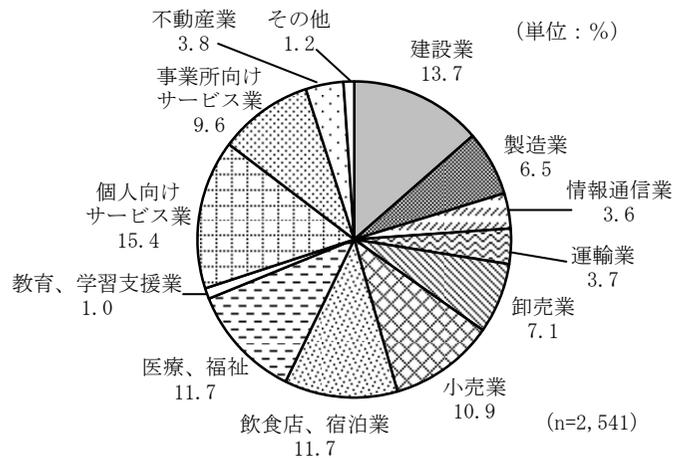
従業者数(開業時)



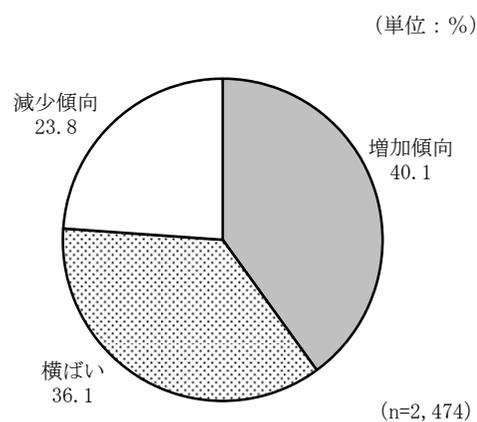
業歴



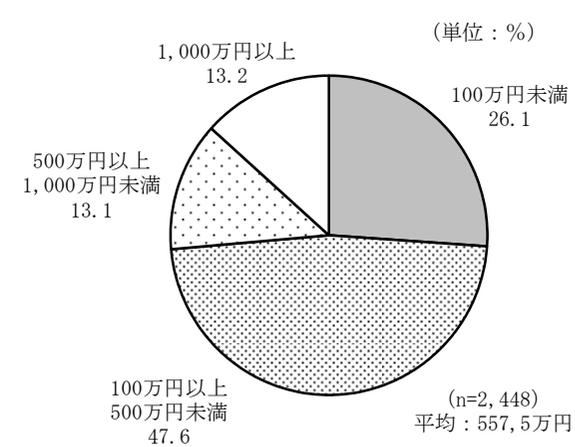
業種



現在の売上状況



現在の月商



『ワークライフバランスの定義』

本調査(アンケートに記載)

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)が取れている状態とは、やりがいや充実感を感じながら仕事上の責任を果たすとともに、家族との生活、地域活動、趣味や学習など、さまざまな活動について自ら希望するバランスで行うことのできる状態をいいます。(仕事あるいは生活の一方に大きなウエートを置いているからといって、直ちにバランスが悪いということではありません。)

<参考>

- 仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」である。
(内閣府「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」2007年12月)
- 「ワーク・ライフ・バランス」とは、老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態である。
(内閣府 男女共同参画会議 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会 「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告」2007年7月)

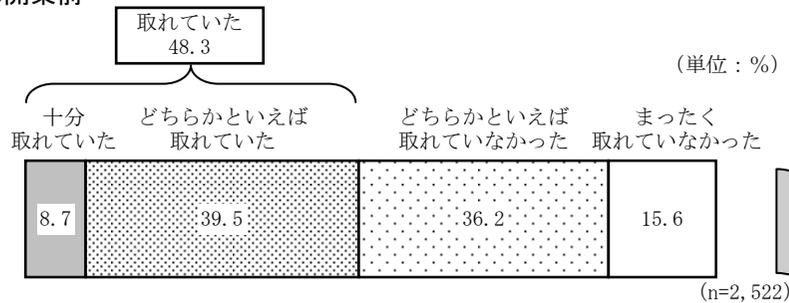
Ⅲ 調査結果

1 ワークライフバランスの状況

- 開業前のワークライフバランスをみると、「十分取れていた」が8.7%、「どちらかといえば取れていた」が39.5%で、「取れていた」と感じている人の割合は約5割であった。現在のワークライフバランスは、「十分取れている」が14.9%、「どちらかといえば取れている」が48.4%となり、開業前を上回る6割以上の人が「取れている」と回答している（図-1）。
- ワークライフバランスの変化を尋ねたところ、「大幅に改善した」が15.4%、「やや改善した」が50.8%と、開業前に比べて改善したと感じている人は66.2%となっている（図-2）。

図-1 ワークライフバランスの状況

①開業前



②現在

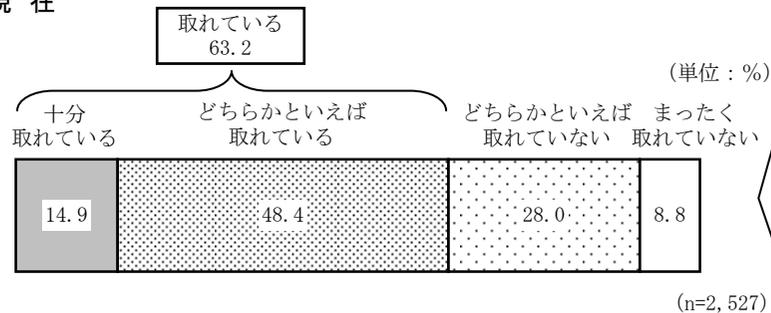
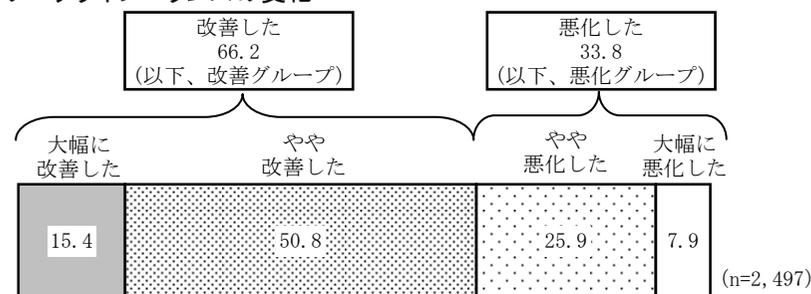


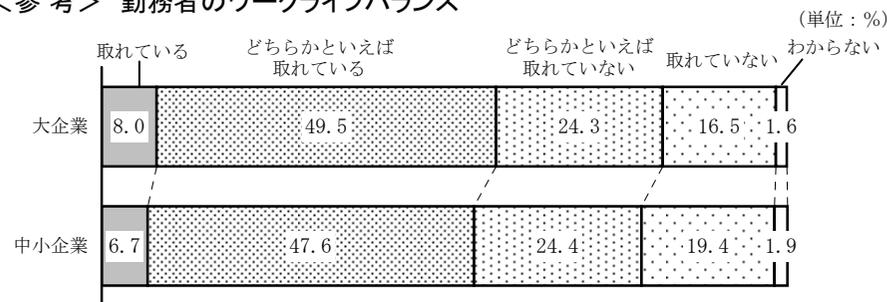
図-2 ワークライフバランスの変化

(単位: %)



(注) ワークライフバランスの状況と変化は別々に尋ねているため、図-1と図-2の結果は個別には必ずしも一致しない。

<参考> 勤務者のワークライフバランス



出所: 中小企業庁『2009年版中小企業白書』

2 ワークライフバランスの改善要因

(1) 時間

- 労働時間の変化をみると、「1時間以上増加」が27.9%、「1時間未満増加」が12.8%と、増加した人が約4割いる一方、「1時間以上減少」が23.9%、「1時間未満減少」が8.2%と、約3割の人は減少している。労働時間の変化とワークライフバランスの関係を見ると、「1時間以上減少」では85.2%、「1時間未満減少」では85.9%と、労働時間が減少すると改善したと捉える割合が高くなる傾向にある（図-3）。
- 片道の通勤時間の変化をみると、「30分以上減少」が23.2%、「30分未満減少」が31.9%と、減少した人が過半を占めている。通勤時間の変化とワークライフバランスの関係を見ると、「30分以上減少」では70.4%、「30分未満減少」では71.2%と、通勤時間が減少した人の7割近くが改善したと回答しており、増加した人に比べて割合が高い（図-4）。

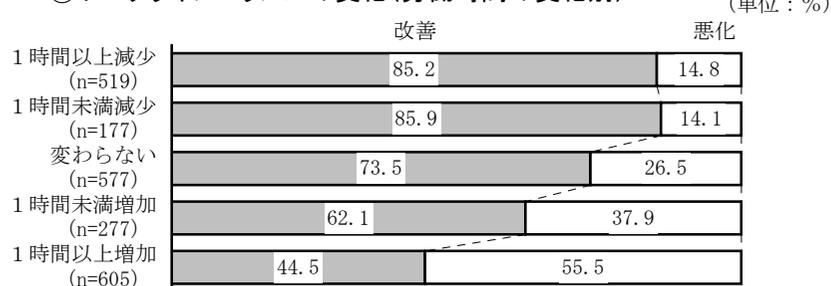
図-3 1日の労働時間

①労働時間の変化



(注) 開業前に働いていた人のみ集計。以下、図-9まで同じ。

②ワークライフバランスの変化(労働時間の変化別)



<参考> 開業前と現在の状況

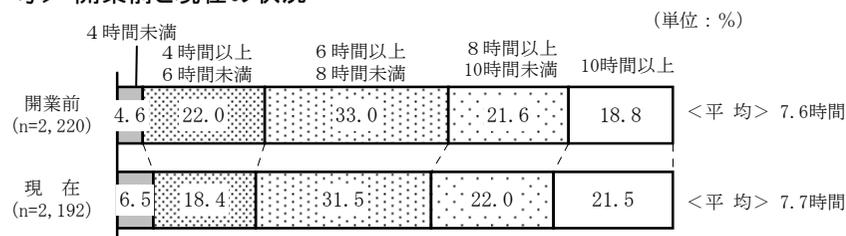
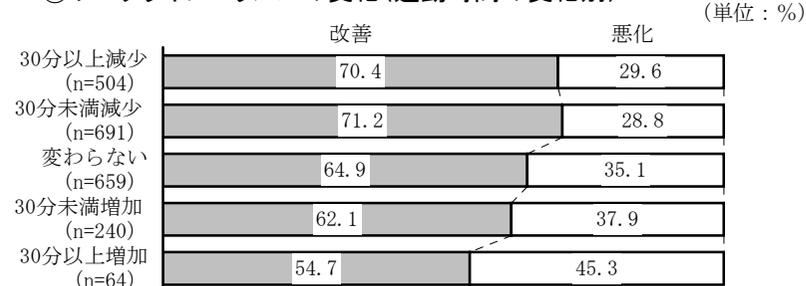


図-4 片道の通勤時間

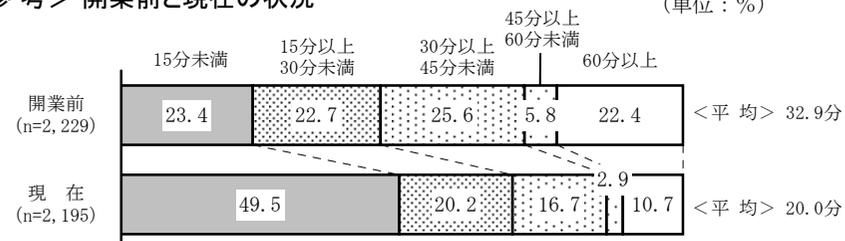
①通勤時間の変化



②ワークライフバランスの変化(通勤時間の変化別)



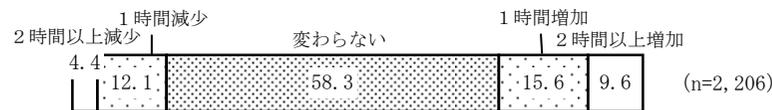
<参考> 開業前と現在の状況



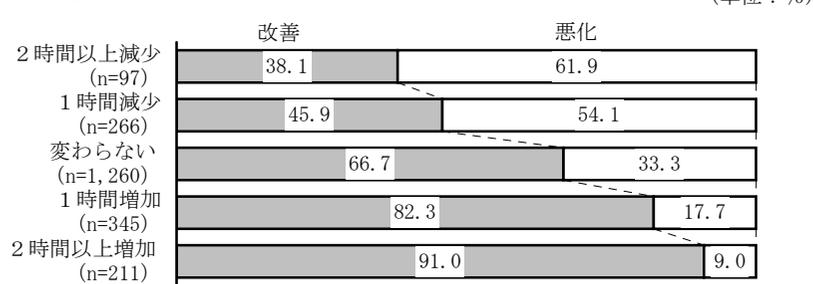
- 睡眠時間の変化をみると、「変わらない」が58.3%と最も高い。睡眠時間の変化とワークライフバランスの関係をみると、「2時間以上減少」では38.1%、「1時間減少」では45.9%と、睡眠時間が減少すると改善したと捉える割合がかなり低くなる傾向にある（図－5）。
- 生活のための時間の変化をみると、「1時間以上増加」が30.5%、「1時間未満増加」が16.9%と、増加した人は約5割いる一方、「1時間以上減少」が25.3%、「1時間未満減少」が16.5%と、約4割の人は減少している。生活のための時間の変化とワークライフバランスの関係をみると、「1時間以上増加」では79.2%、「1時間未満増加」では73.3%と、生活のための時間が増えるほど改善したと感じている割合が高い（図－6）。

図－5 1日の睡眠時間

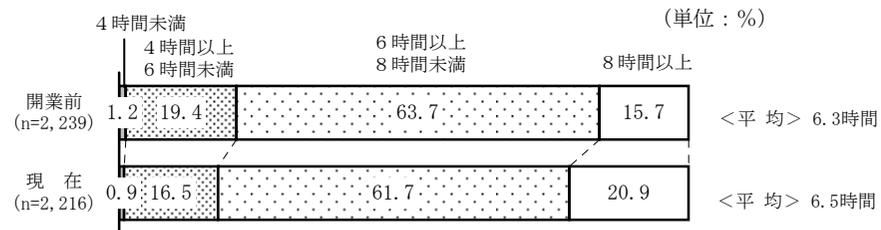
①睡眠時間の変化



②ワークライフバランスの変化(睡眠時間の変化別)



<参考> 開業前と現在の状況



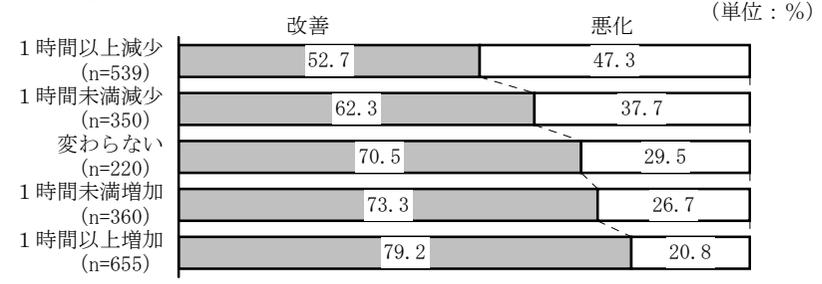
図－6 1日の生活のための時間

①生活のための時間の変化

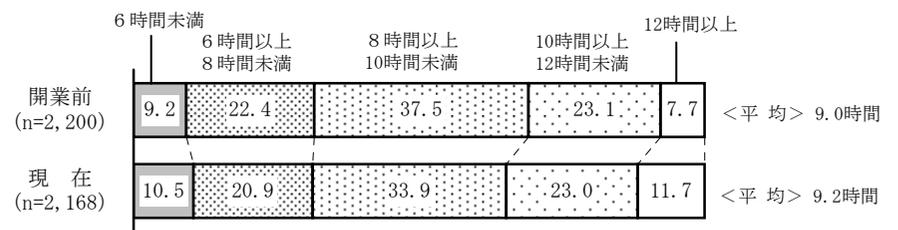


(注) 1日の生活のための時間 = 24 - (1日の労働時間 + 往復の通勤時間 + 睡眠時間)

②ワークライフバランスの変化(生活のための時間の変化別)

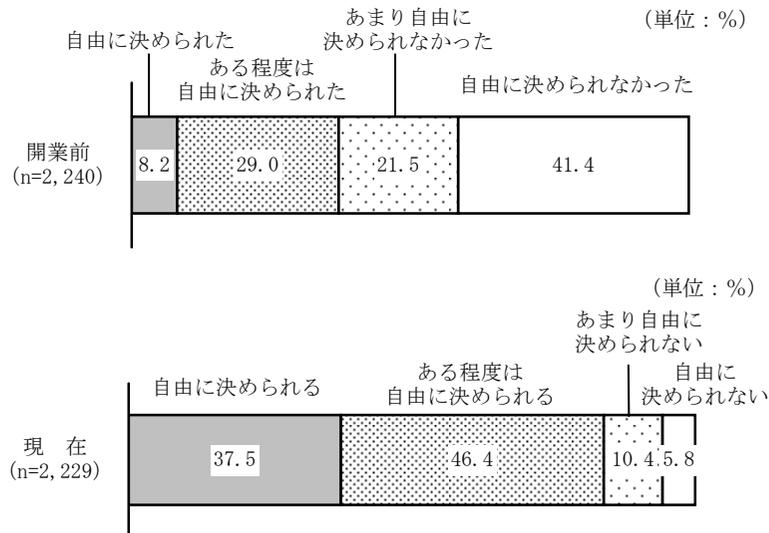


<参考> 開業前と現在の状況

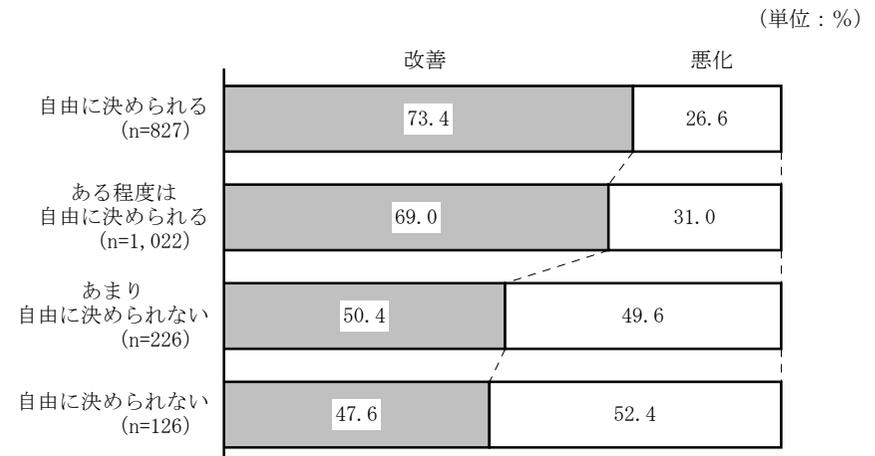


- 仕事をする時間帯について、開業前は「自由に決められなかった」人は41.4%、「あまり自由に決められなかった」人は21.5%と、自由に決められなかった人が6割を占めていた。一方、現在は「自由に決められる」人が37.5%、「ある程度は自由に決められる」人が46.4%と、自由に決められる人は約8割を占めている（図－7①）。
- 仕事をする時間帯とワークライフバランスの関係を見ると、「自由に決められる」人では73.4%、「ある程度は自由に決められる」人では69.0%と、仕事をする時間帯を自由に決めることができるほど改善したと感じている割合が高い（図－7②）。

図－7 仕事をする時間帯
①開業前と現在の状況



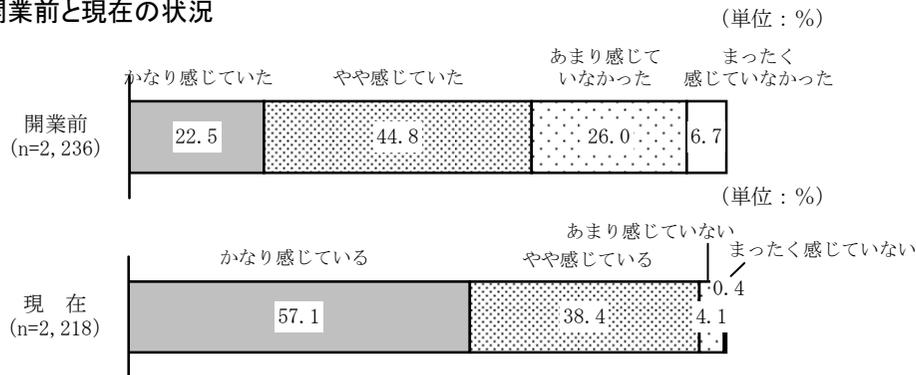
②ワークライフバランスの変化(仕事をする時間帯別)



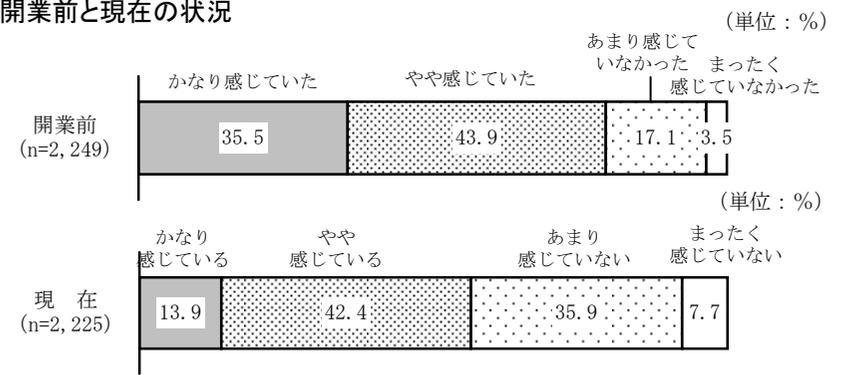
(2) 仕事

- 仕事の充実感について、現在、「かなり感じている」は57.1%、「やや感じている」は38.4%と、充実感を感じている人は約9割を占めている。仕事の充実感とワークライフバランスの関係を見ると、「かなり感じている」では71.0%、「やや感じている」では64.9%と、充実感を感じているほど改善したと捉える割合は高い（図－8）。
- 仕事のストレスをみると、開業前は「かなり感じていた」が35.5%、「やや感じていた」が43.9%と、約8割の人がストレスを感じていたのに対し、現在、ストレスを感じている人は約6割と、開業前を下回っている。仕事のストレスとワークライフバランスの関係を見ると、「かなり感じている」では37.0%、「やや感じている」では64.9%と、ストレスを感じているほど改善したと捉える割合は低い（図－9）。

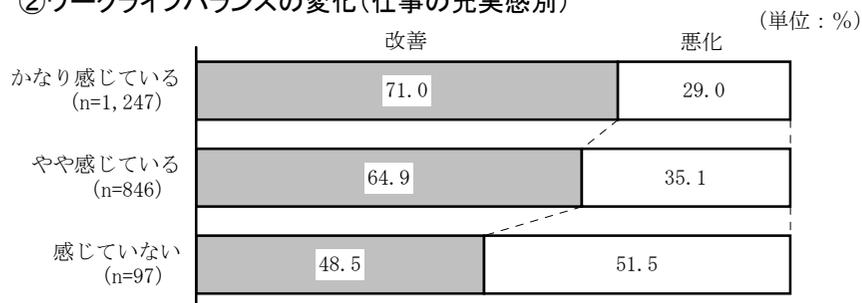
図－8 仕事の充実感
①開業前と現在の状況



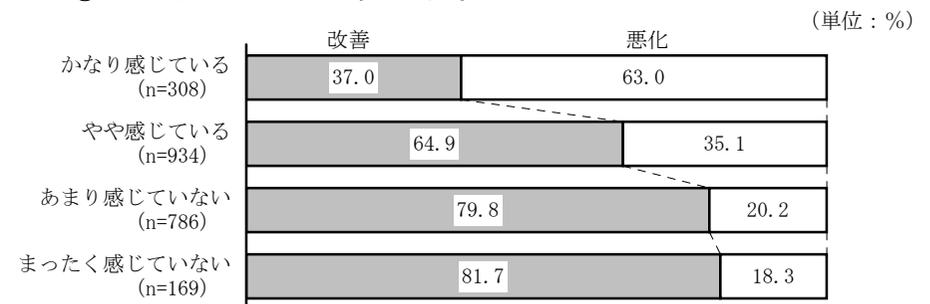
図－9 仕事のストレス
①開業前と現在の状況



②ワークライフバランスの変化(仕事の充実感別)



②ワークライフバランスの変化(仕事のストレス別)



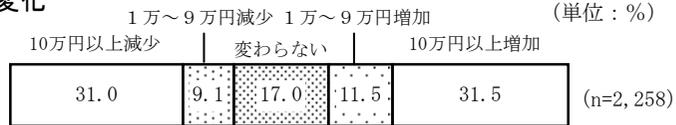
(注) 「まったく感じていない」のサンプルサイズが小さいことから、「あまり感じていない」と「まったく感じていない」を合わせて、「感じていない」とした。

(3) 収入

- 収入の変化をみると、「10万円以上増加」が31.5%、「1万～9万円増加」が11.5%と、増加した人が約4割いる一方、減少した人も約4割いる。収入の変化とワークライフバランスの関係をみると、改善したと捉える割合は、収入が「10万円以上減少」では59.8%にとどまるのに対し、「10万円以上増加」では70.3%、「1万～9万円増加」では70.8%、「変わらない」では70.2%となっている。収入が開業前と比べて変わらない、または、増えた場合に改善したと感じている割合が高い傾向にある（図-10）。
- 事業の採算状況をみると、全体では「黒字基調」が55.7%、「赤字基調」が44.3%となっている。採算とワークライフバランスの関係をみると、「黒字基調」では70.3%、「赤字基調」では62.2%と、事業のパフォーマンスがよいと、改善したと捉える割合が高い（図-11）。

図-10 収入(経営者本人・月平均の手取り)

①収入の変化



②ワークライフバランスの変化(収入の変化別)

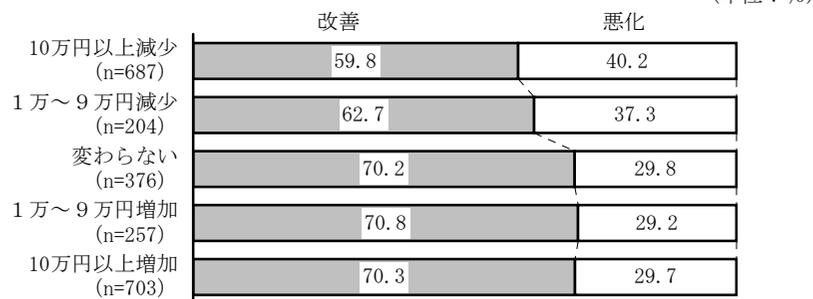
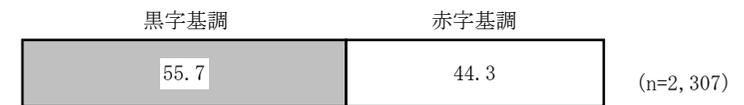
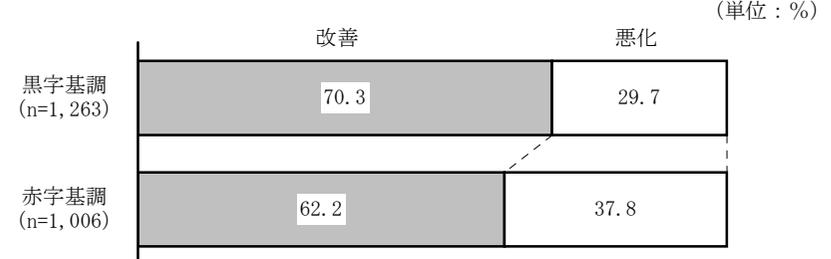


図-11 事業の採算

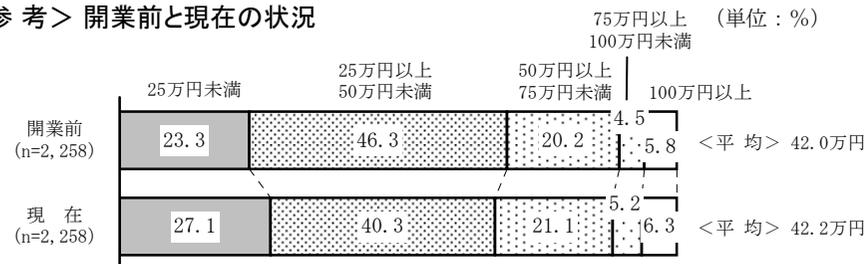
①現在の状況



②ワークライフバランスの変化(事業の採算別)



<参考> 開業前と現在の状況



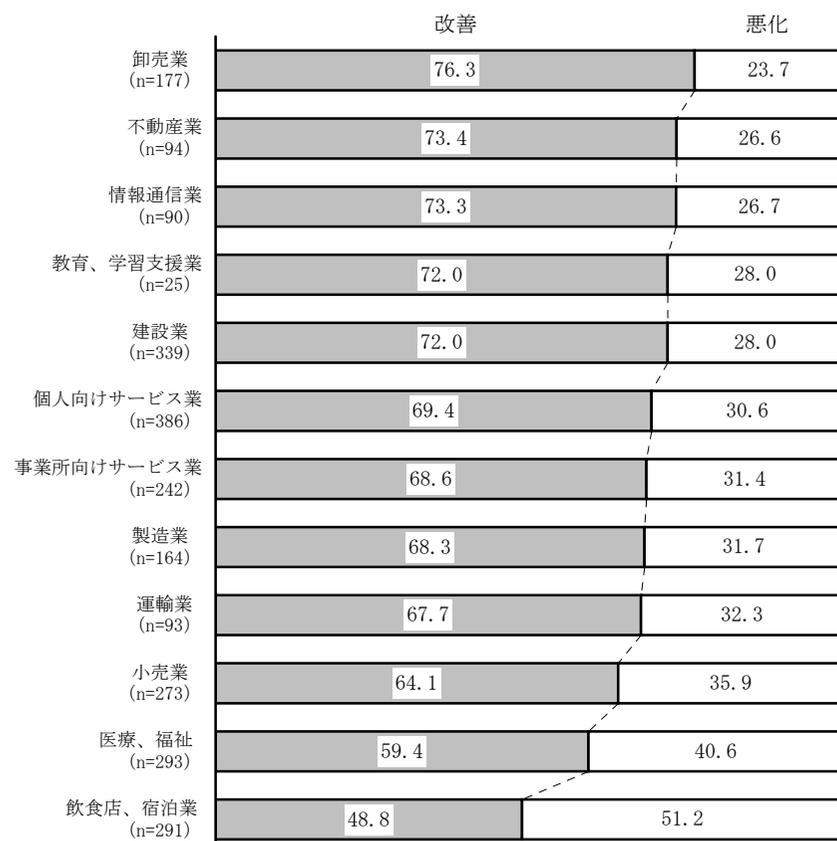
3 属性とワークライフバランスの変化

(1) 企業

○ 業種をみると、ワークライフバランスが改善したと感じている割合が最も高いのは「卸売業」の76.3%で、以下、「不動産業」が73.4%、「情報通信業」が73.3%などとなっている。一方、改善したと捉える割合が最も低いのは「飲食店、宿泊業」の48.8%、次いで、「医療、福祉」が59.4%、「小売業」が64.1%などとなっている（図-12）。

図-12 業種

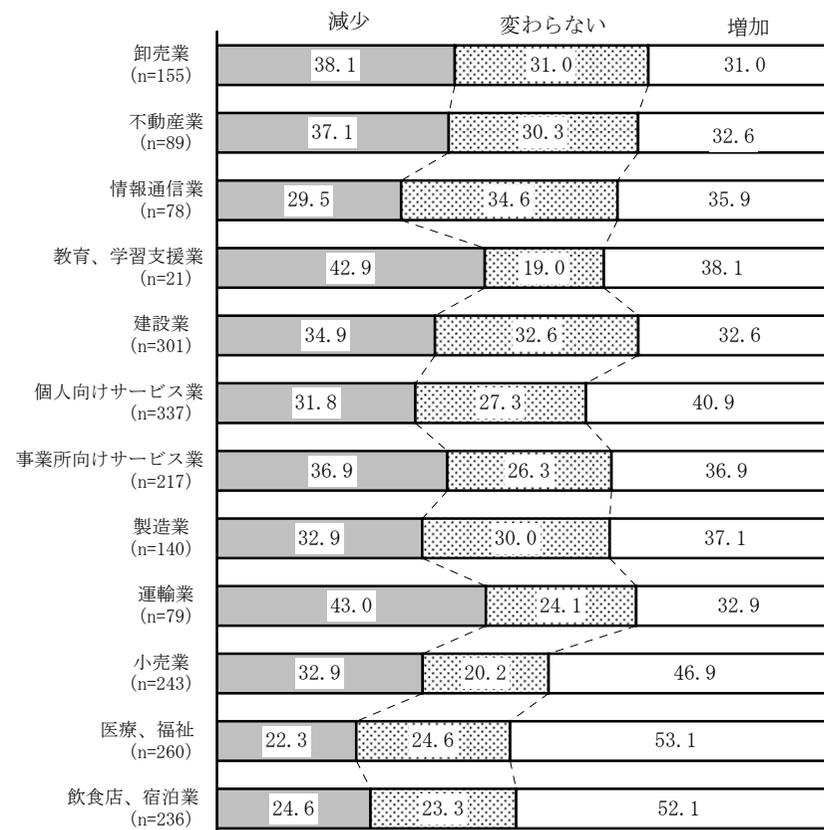
(単位：%)



(注) 「その他」の業種は省略した。

<参考> 労働時間の変化(業種別)

(単位：%)



(注) 開業前に働いていた人のみ集計。

- 開業時の従業者数をみると、ワークライフバランスが改善したと感じている割合が最も高いのは「1人」で72.6%、以下、「2人」では70.7%、「3人」では64.4%と、従業者が少ないと改善したと捉える割合は高くなる傾向にある（図-13）。
- 事業の本拠地が「自宅（敷地内の別棟を含む）」の場合、ワークライフバランスが改善したと回答した人の割合は73.5%と、「自宅外の事務所・店舗・工場など」の63.4%に比べて高い（図-14）。

図-13 従業者数(開業時)

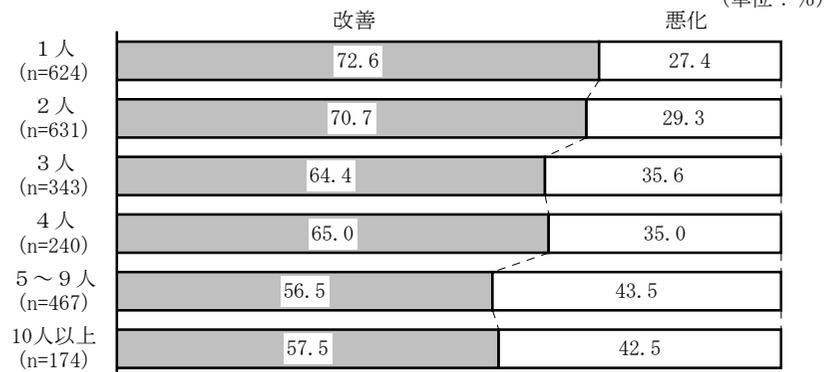
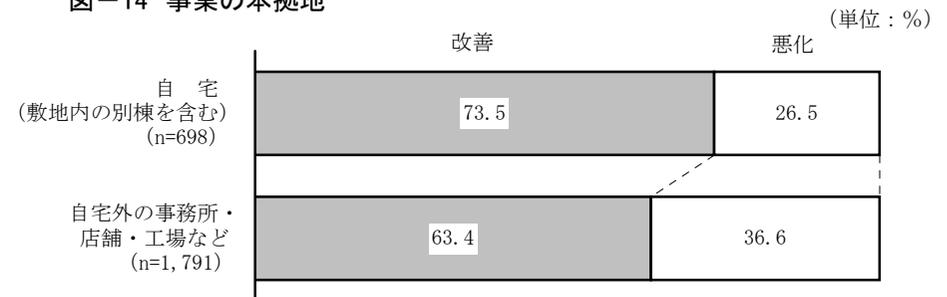
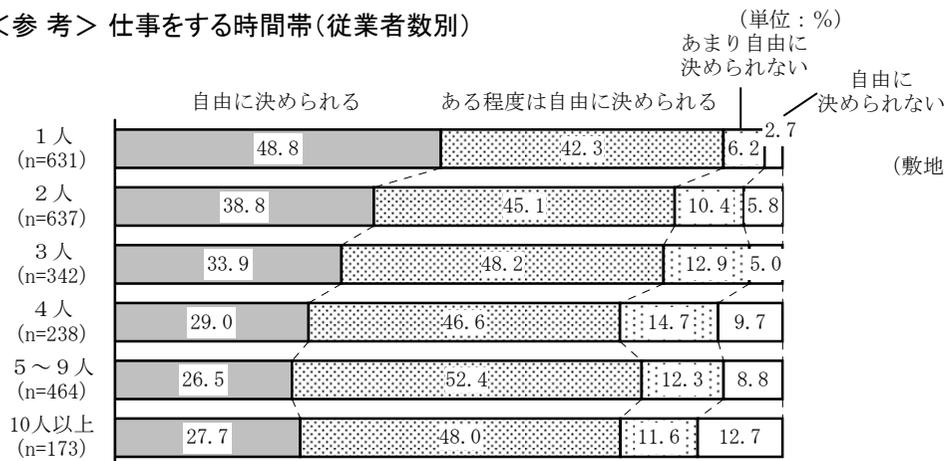


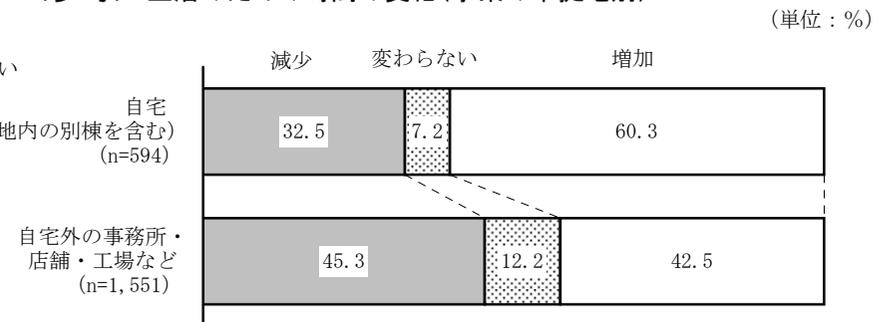
図-14 事業の本拠地



<参考> 仕事をする時間帯(従業者数別)



<参考> 生活のための時間の変化(事業の本拠地別)



(注) 開業前に働いていた人のみ集計。

(2) 経営者

- 経営者の年齢別にワークライフバランスが改善したと感じている割合をみると、「60歳以上」を除けば、「29歳以下」では69.7%、「30歳代」では67.3%、「40歳代」では64.9%と、若年層の方が改善したと捉える割合が高くなっている（図-15）。
- 性別による違いをみると、「男性」では67.7%が改善したと感じており、「女性」の56.3%に比べて割合は高い（図-16）。

図-15 年齢

(単位：%)

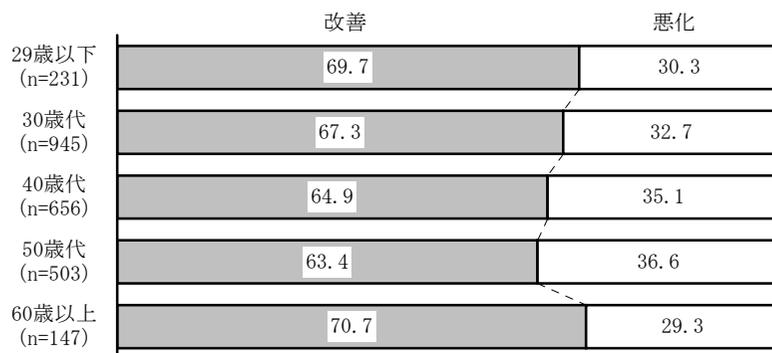
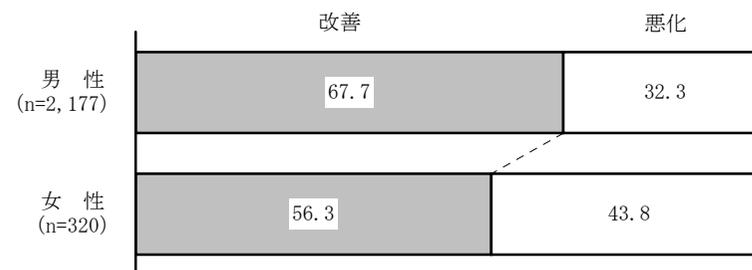


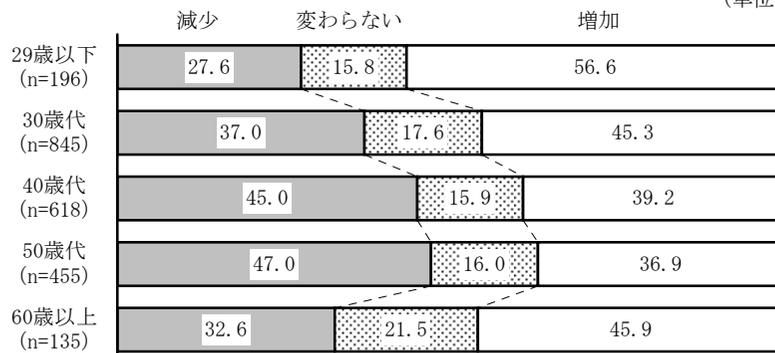
図-16 性別

(単位：%)



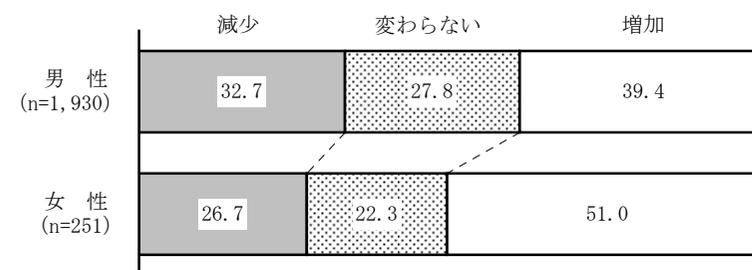
<参考> 収入の変化(年齢別)

(単位：%)



<参考> 労働時間の変化(男女別)

(単位：%)



(注) 開業前に働いていた人のみ集計。

4 満足度

- ワークライフバランスの変化と仕事に対する満足度の関係を見ると、改善グループでは仕事に満足している人の割合は77.6%で、悪化グループの63.3%に比べて14.3ポイント高い（図-17）。
- 生活に対する満足度をみると、改善グループでは8割近くの人が満足している一方、悪化グループでは約2割にとどまっている。改善グループと悪化グループの差は55.2ポイントと、仕事に対する満足度と比べて差が大きい（図-18）。
- 開業をきっかけとする出来事を見ると、改善グループでは「趣味や勉強に取り組めるようになった」が30.7%、「転勤の可能性がなくなった」が24.4%、「地域活動に参加できるようになった」が15.0%、「育児に取り組めるようになった」が9.9%と、それぞれ悪化グループに比べて高くなっている（図-19）。

図-17 仕事に対する満足度(ワークライフバランスの変化別)

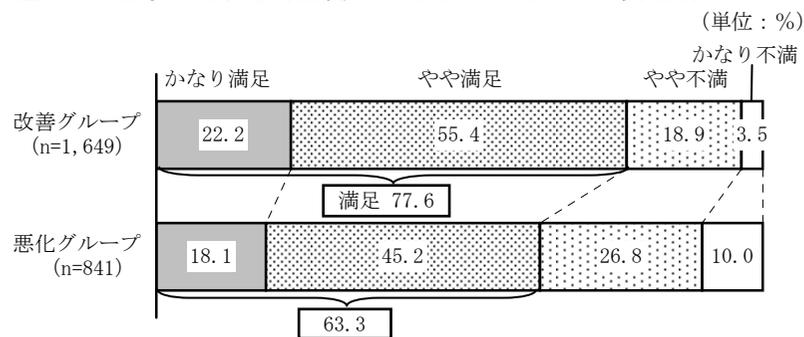


図-18 生活(家族との生活、地域活動、趣味や学習など)に対する満足度(ワークライフバランスの変化別)

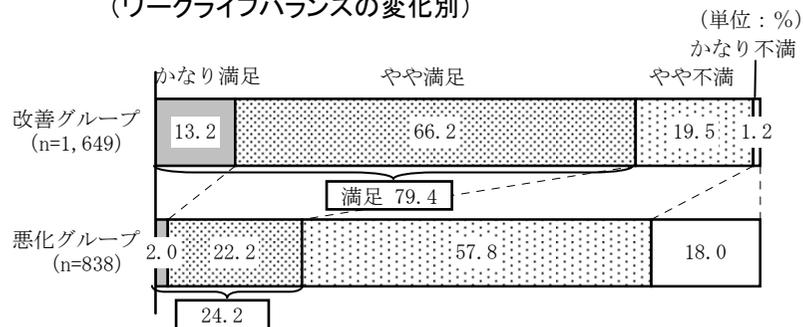
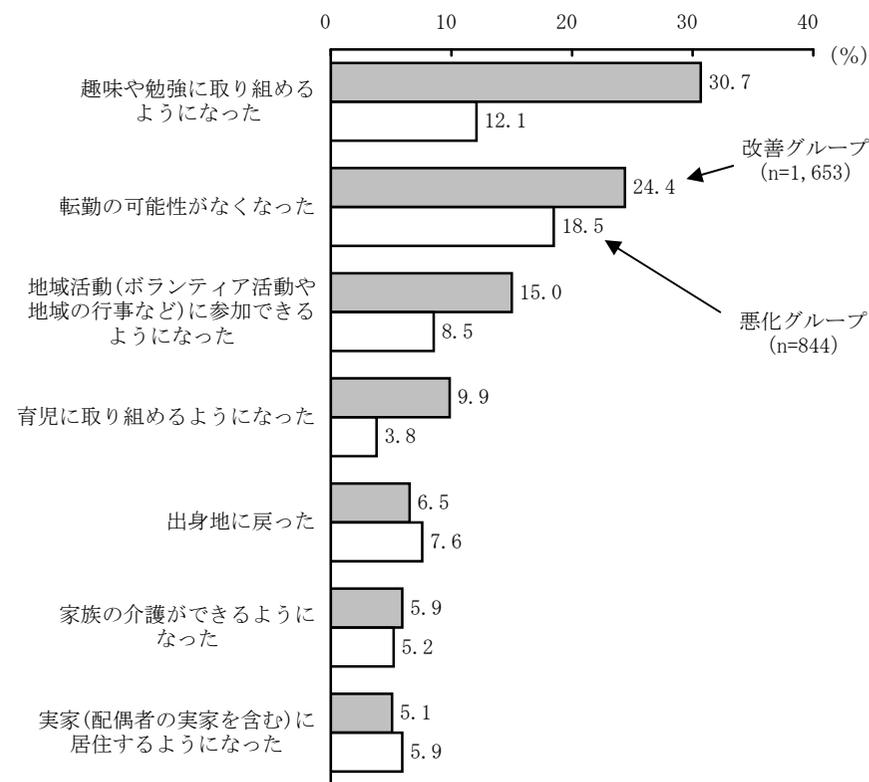


図-19 開業をきっかけとする出来事(複数回答)



IV まとめ

- 新規開業者の約7割は、開業前に比べて開業後のワークライフバランスが改善したと感じている。
- ワークライフバランスが改善したと感じる背景には、多様な要因が影響している。労働時間や通勤時間の減少、生活のための時間の増加、仕事をする時間帯の裁量といった、時間に関するものだけでなく、仕事の充実感や開業前と同水準以上の収入といった要因もある。
- 従業者数の少ない小規模な開業では仕事をする時間帯が決めやすいこと、事業の本拠地を自宅とするケースでは生活のための時間を確保しやすいことから、ワークライフバランスが改善したと認識している人の割合は高い。
- ワークライフバランスが改善したと感じている開業者は、悪化したと捉えている人に比べて、特に生活面に満足している割合が高い傾向にあり、自己啓発の取り組みや地域活動への参加といった、仕事以外の活動に取り組むケースも少なくない。新規開業の役割として、経済の活性化や雇用の創出があげられることが多いが、経営者のワークライフバランスという視点も意識する必要があるといえるだろう。